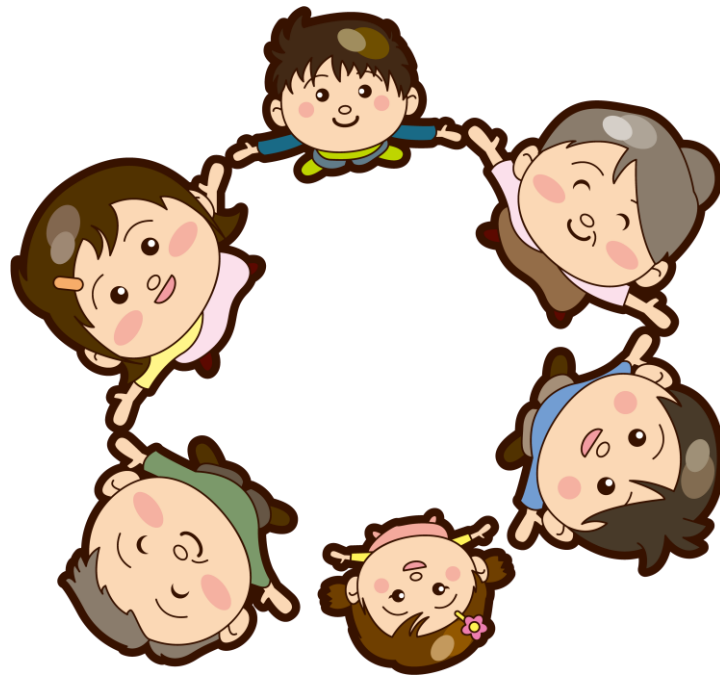


はんだ学びプラン

第3次半田市生涯学習推進計画



令和3年4月
半田市教育委員会

ごあいさつ

本市では、いつでも、どこでも、だれでも、生涯にわたり、自身の目的にそって主体的に活動し、充実した人生を送ることができる生涯学習社会の構築に向け、平成23年より「第2次半田市生涯学習推進計画はんだ学びプラン」に基づき、さまざまな取り組みを進めてまいりました。

この度、第2次の計画期間が終了しましたことから、これまでの成果はもとより、市民の皆様のご意見を反映させていただき、現在の社会情勢や学習環境を踏まえながら、「はんだ学びプラン 第3次半田市生涯学習推進計画」を策定いたしました。

令和2年は、「新型コロナウイルスによる感染拡大」が世界中に大きな影響をもたらしました。コロナ禍で生活が制限される中で、情報通信技術の進化は、自宅に居ながら必要な情報の収集ができたり学びの手段になったりするなど、私たちの生活を便利にし、欠かせないものであることを改めて認識しました。また、その一方で、私たちが欲したものは「人とのつながり、コミュニケーションの場」であったことも確かでした。

超高齢社会、子ども・若者の貧困問題、ICT化やグローバル化、社会のつながりの希薄化など、私たちを取り巻く社会状況は大きく変化してきています。その変化に柔軟に対応し、人とのつながりを大切にしつつ、新しい時代と共存していかななくてはなりません。

これまでの成果を土台に、市民一人一人が、生涯にわたって楽しんで学習に取り組む、自分づくり、ひとづくり、まちづくりにつながる活動をより一層広げていけるよう、学習活動の支援や環境整備、体制づくりを積極的に推進してまいります。

本推進計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました関係の皆様への感謝とともに、今後も、生涯学習の充実のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。



令和3年4月

半田市教育委員会教育長 鈴川 慶光

目次

第1章 計画の概要

第1節	計画策定の趣旨と背景	1
第2節	基本理念	2
第3節	重点項目および基本目標	3
第4節	計画の位置づけ	4
第5節	計画の期間	4
第6節	計画とSDGsとの関係	5

第2章 本市の現状

第1節	本市の生涯学習拠点施設	6
第2節	市民の生涯学習に関する意識	7

第3章 基本目標と施策展開

第1節	「自分づくり」のための学びの応援	14
施策1	学習機会の充実	14
施策2	学習情報提供の充実	17
施策3	読書支援の充実	17
第2節	「ひとづくり」のための学びの応援	18
施策1	生涯学習推進のための人材活用と育成	18
施策2	市民の自主的な講座開設のためのシステムづくり	20
第3節	「まちづくり」のための学びの応援	21
施策1	生涯学習施設での学びの応援	21
施策2	伝統行事に参加する市民への応援	22
施策3	地域の資源を活かした各種連携への応援	23
施策4	健康で心豊かなまちづくりにつながる学びの応援	24
施策5	文化・芸術活動の参加機会の充実と活性化	25

【資料】

1	市民からの意見・要望（アンケート抜粋）	28
2	半田市生涯学習推進協議会等委員名簿	33

第1章 計画の概要

第1節 計画策定の趣旨と背景

「生涯学習」とは、私たちが生涯にわたって行う学習活動です。

私たちは、生まれるとすぐに、家庭を中心として学習を始めます。

やがて、学校に通い学習をすすめるとともに、地域社会でもいろいろな学習機会に出会い、学習することがらを広げていきます。

さらに、学校を卒業して社会に出ると、仕事にかかわる学習や、豊かで充実した人生を送るための学習を続けることとなります。

このように、家庭・学校・職場・地域社会で行われるすべての学習を生涯学習として捉えることができ、生涯学習は、私たち一人ひとりの生きていく姿そのものに深くかかわっているといえます。

人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動で、学校教育や公共施設等における講座などの学習機会に限らず、自分からすすんで行う学習やスポーツ・文化活動・趣味・ボランティア活動などにおける、さまざまな学びのことを「生涯学習」といいます。

本市では、平成11年3月に「半田市生涯学習推進計画」、23年3月には「第2次半田市生涯学習推進計画 はんだ学びプラン」を策定しました。各生涯学習施設とそれぞれの世代を結びつける情報ネットワークの構築、世代や地域を結びつける核となる人材の育成、情報と人材が生かせる場の整備を柱に、生涯学習を推進してきました。その結果、さまざまな形で学びや活動を行う市民が増加しました。

しかし、超高齢社会、子ども・若者の貧困問題、家庭教育の困難化、情報環境の変化、社会のつながりの希薄化など、私たちを取り巻く社会状況は大きく変化しています。こうした状況において、生涯を通じて自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が新たな未来の担い手となる生涯学習社会の実現が求められています。

本計画は、これまでの本市の取組を継承しつつ、これからの社会状況の変化や市民ニーズの多様化に対応すべく、今後の本市の生涯学習施策を総合的に、計画的に推進するための新たな指針として策定することとしました。

第2節 基本理念

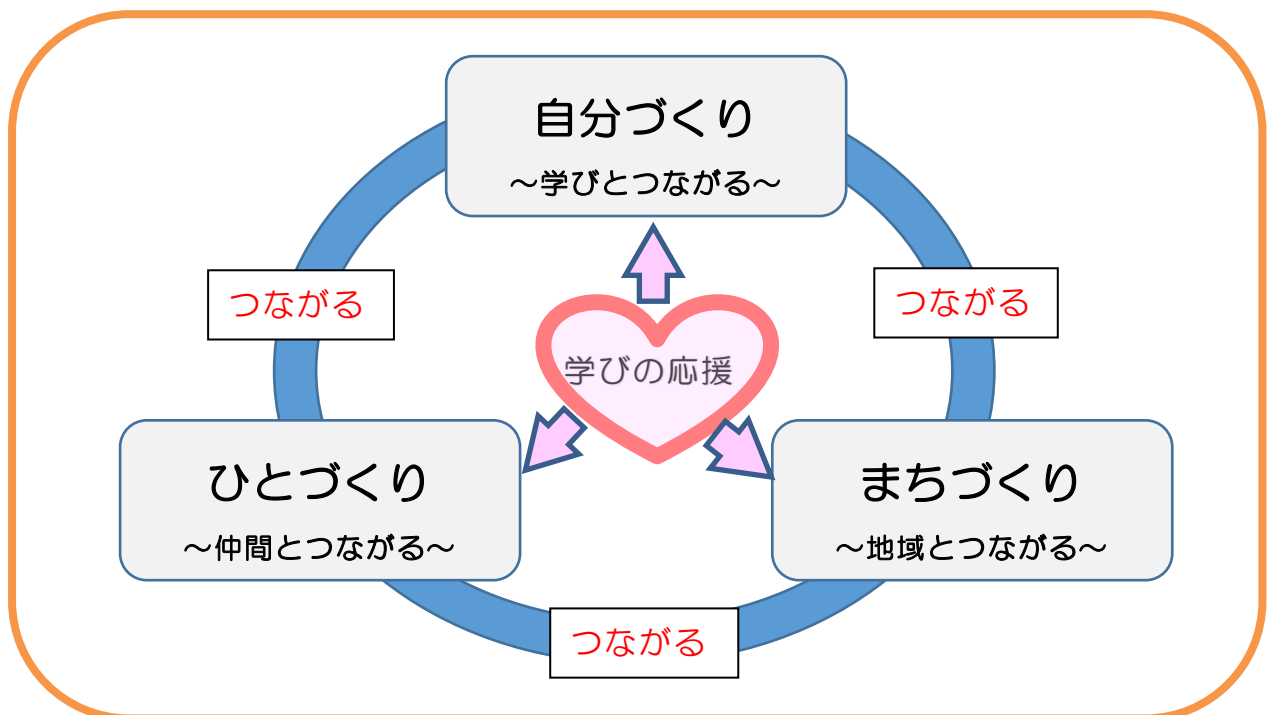
本市がめざす生涯学習の基本理念

「だれもが楽しみ 学びでつながる
自分づくり ひとづくり まちづくり」

「生涯学習社会」とは、いつでも、どこでも、だれでもが、自分自身の目的にそって主体的に活動し、充実した人生を送ることができ、その成果が地域社会で適切に評価される社会をいいます。そして、さらに市民一人ひとりが生涯にわたる学習を通して得た成果を活用し、社会の諸活動に参加することが心の豊かさを育み、地域社会を発展させる原動力となります。

市民だれもが主体的に活動し、楽しみながら、自分づくり、ひとづくり、まちづくりにつながる学びを応援していくことをめざし、生涯学習推進計画の基本理念を「だれもが楽しみ 学びでつながる 自分づくり ひとづくり まちづくり」としました。

《基本理念のイメージ図》



第3節 重点項目および基本目標

「市民一人ひとりのライフスタイルに合わせた学びを応援する」

基本目標

その1「自分づくり」のための学びの応援をします。

好きなこと・知りたいこととつながることで、生涯にわたって学び続けたい
と思い、学ぶ喜びを味わうことができる市民を応援します。

年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が、学びたい
ことを学びたいときに学ぶ環境を提供します。

また、ライフスタイルに合わせた学習機会を提供します。

その2「ひとづくり」のための学びの応援をします。

活動の成果を評価したり、学びの技能を習得したりして、新しい指導者の育
成や後継者の育成を支援します。

また、学びで得た知識や自分の持つ技能・特性を生かし、地域の活動に積極
的に参加し、生活を豊かにしていくための学びの場を提供します。

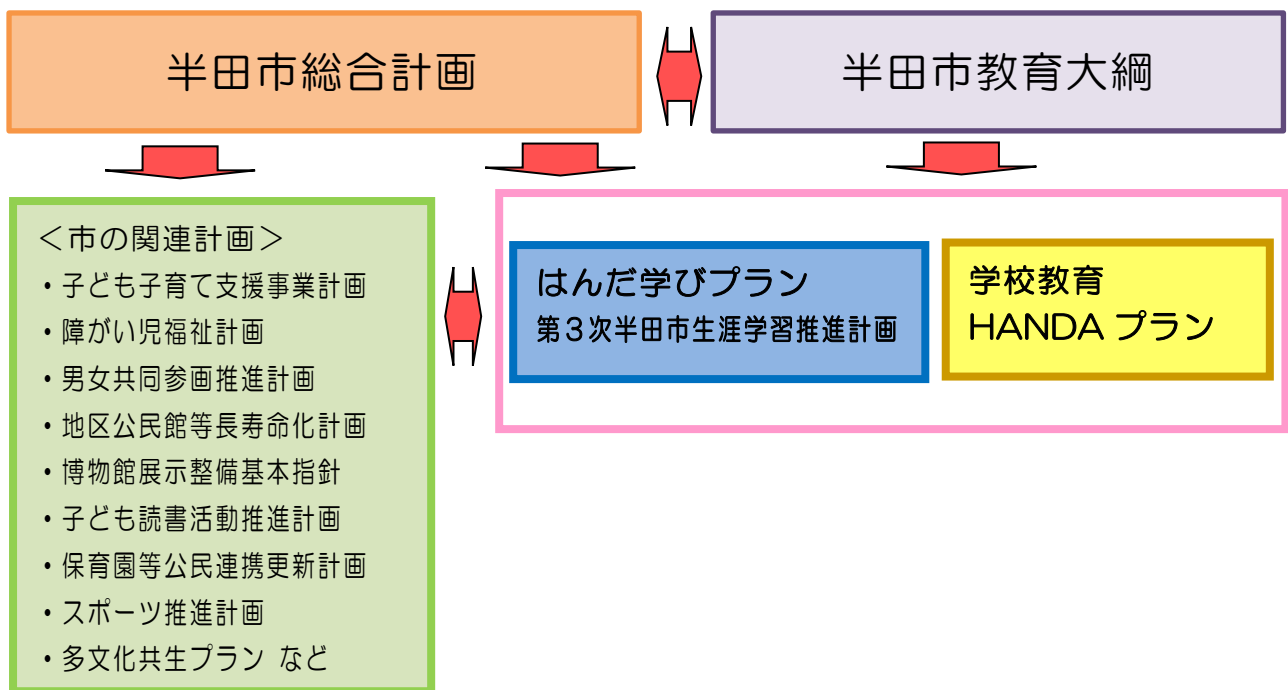
その3「まちづくり」のための学びの応援をします。

市民自らが我がまち「はんだ」を育てるという意識をもって、生活の向上と
豊かな地域社会づくりに取り組むための学習活動を支援します。

地域の活動に参加する。地域の人と学ぶ。地域の施設を活用する。このよう
に、さまざまな形で市民が地域とつながることで地域が活性化し、新たな市民
が集うまちづくりの場を提供します。

第4節 計画の位置づけ

本計画は、「半田市総合計画」「半田市教育大綱」を上位計画とした生涯学習の推進のための基本計画です。具体的には、生涯学習の推進に関わる総合的かつ体系的な指針であり、生涯学習関連施策の基本的な考え方や事業等の方向性を明らかにするものです。計画の策定にあたっては、半田市の実態を踏まえ、上位計画、関連計画との整合を十分に図るものとします。



第5節 計画の期間

この計画の期間は令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間とします。なお、1年毎の進捗管理を行い、令和7年度に中間見直しを行います。また、社会状況などに大きな変化が生じた場合には、必要に応じて見直しを行います

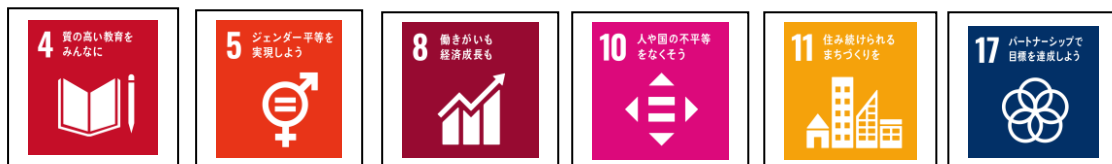
第6節 計画とSDGsとの関係

はんだ学びプラン 第3次半田市生涯学習計画とSDGsとの関係

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す世界共通の『持続可能な開発目標』のことです。

SDGsは、社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17の目標を、総合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

本計画には、SDGsの17の目標のうち、6つの目標が大きく関わっています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

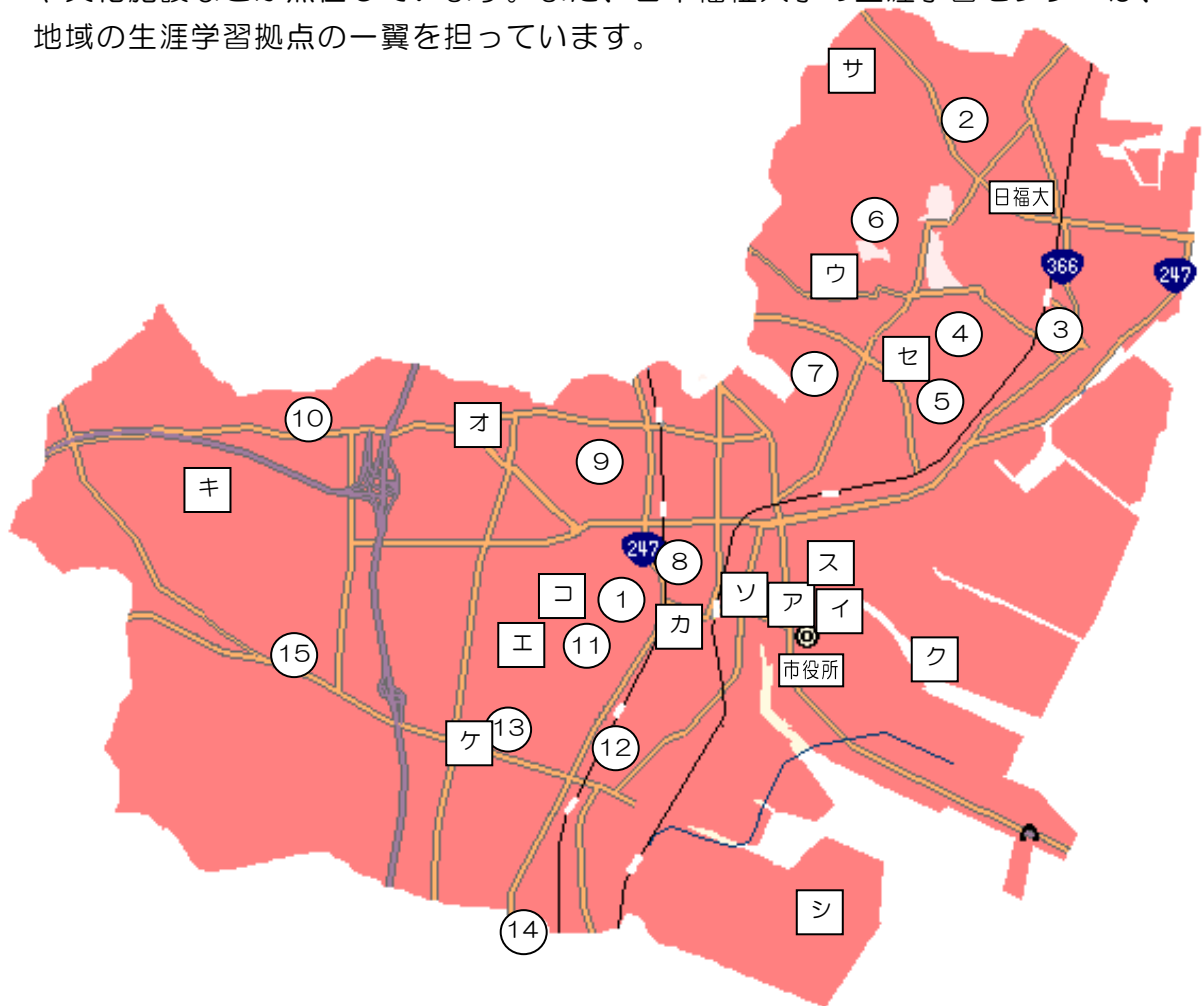


第2章 本市の現状

第1節 本市の生涯学習拠点施設

知多半島の中核都市である半田市の人口は 119,884人（令和2年4月1日現在）であり、多くの市民が日常生活の中でさまざまな学習活動や市民活動等を行っています。

市内には中央公民館をはじめ、14の地区公民館、図書館、博物館、体育施設や文化施設などが点在しています。また、日本福祉大学の生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点の一翼を担っています。

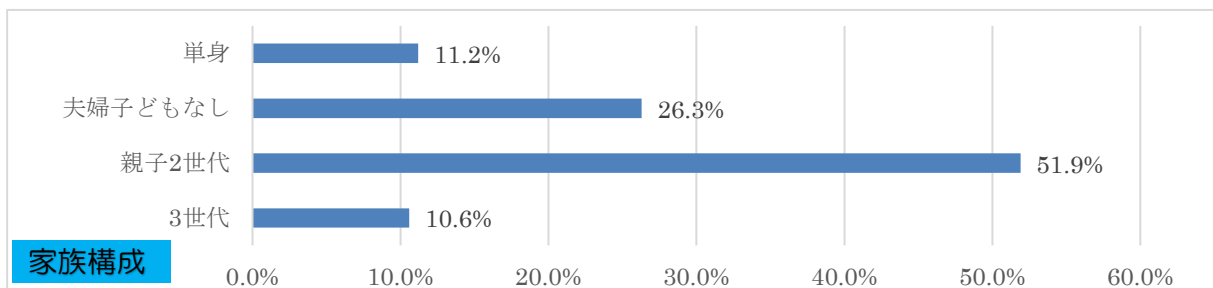
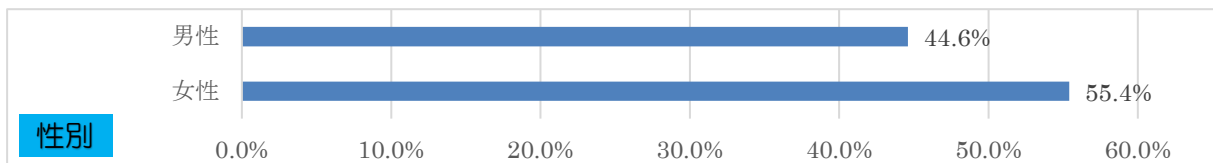
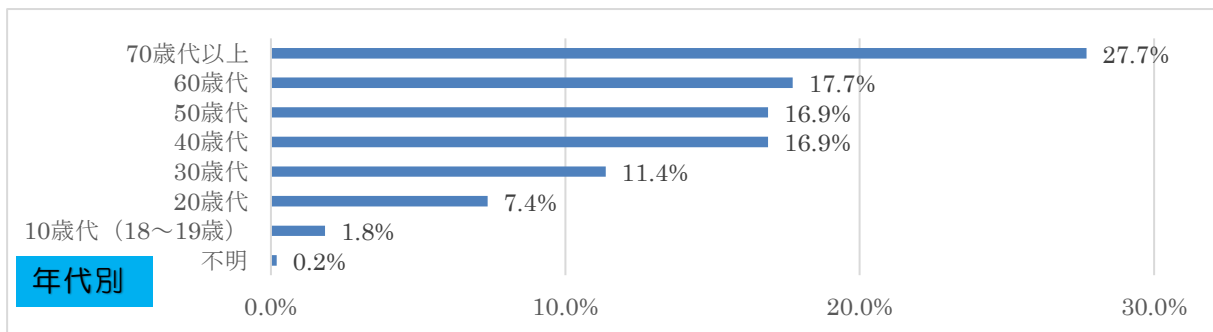


- | | | | |
|--|--|--|--|
| <公民館> ① 雁宿ホール・中央公民館 ② 有脇公民館 ③ 亀崎公民館・図書館(亀崎) ④ 平地公民館
⑤ 向山公民館 ⑥ 上池公民館 ⑦ 乙川公民館 ⑧ 住吉公民館 ⑨ 岩滑公民館 ⑩ 修農公民館
⑪ 協和公民館 ⑫ 成岩公民館 ⑬ 西成岩公民館 ⑭ 神戸公民館 ⑮ 板山公民館 | | | |
| <その他> ア アイプラザ半田 イ さくら小学校生涯学習施設 ウ 横川小学校生涯学習施設
エ 図書館(本館)・博物館・空の科学館・体育館 オ 新美南吉記念館 カ 市民交流センター
キ 運動公園 ク 福祉ふれあいプール ケ 青山記念武道館 コ 半田球場
サ 北部グラウンド シ マリングラウンド セ 上浜グラウンド
ソ 乙川交流センターニコパル ツ 半田市鉄道資料館 | | | |

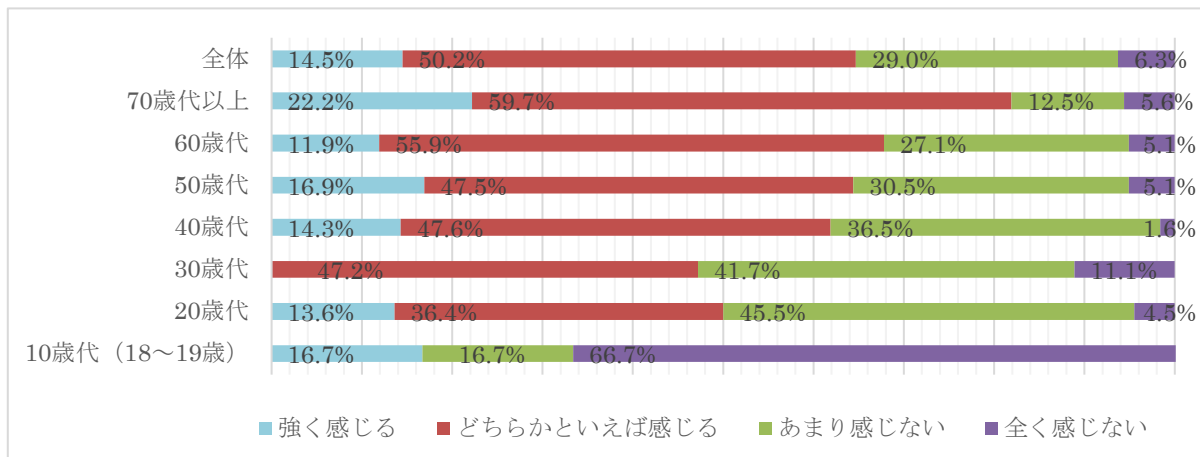
第2節 市民の生涯学習に関する意識

生涯学習に関する市民意識の現状を把握し、計画のさらなる推進を図るため、令和元年11月に、「半田市生涯学習に関する市民アンケート調査」（18歳以上90歳未満の市民2,000人を抽出、回答数598、有効回答率30.0%）を実施しました。

アンケート回答の年代別・性別・家族構成の割合



生涯学習の必要性（単位 %）



この結果からみる市民の生涯学習に関する意識は次のようになります。

回答の年齢構成と生涯学習の必要性について

回答の年齢の割合は、60代以上が45.4%と多く、高齢者の生涯学習への関心は高いといえます。また、親子2世代での家族構成が多く、親子3世代で生活している家族は10.6%と低いことがわかります。

平成27年度の調査結果では、生涯学習の必要性としては、「だれでも生涯にわたって必要」という考えの市民が45.2%「必要と思う人がやればよい」という考えの市民は、38.8%でした。今回の調査では、日頃から生涯学習の必要性を感じていますかという問いに、「強く感じる」「どちらかといえば感じる」と答えた市民は64.7%であり、生涯学習の必要性の認知は高くなったといえます。逆に「あまり感じていない」「全く感じていない」と答えた市民は36.3%でした。

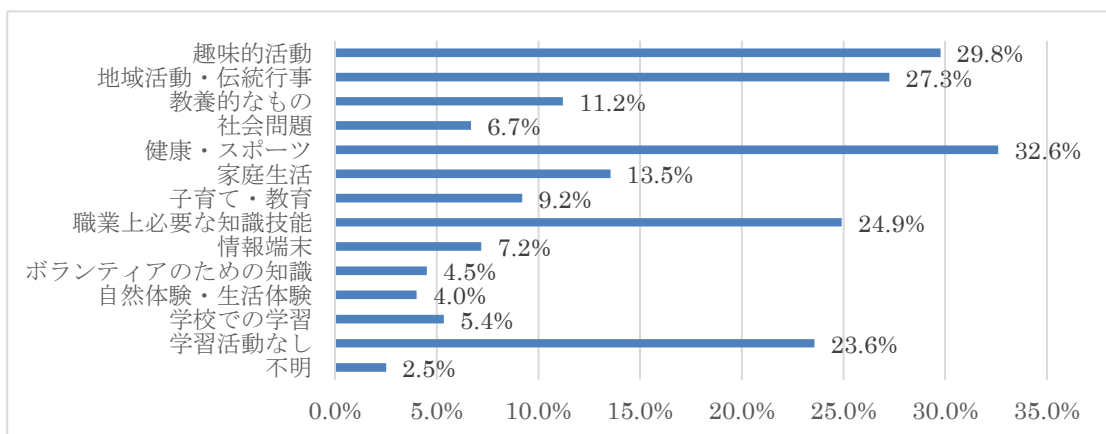
今回の調査結果を分析すると、「生涯学習の必要性」を感じ取っている年代は、50代以降歳が上がるにつれ意識が高くなっており、第2次半田市生涯学習推進計画の効用があったと思われます。生涯学習の必要性を感じ取っている年代には引き続き、生涯学習の推進を図る一方で、「生涯学習の必要性」をあまり感じとっていないと答える40代に至るまでの年代に、幅広くより一層生涯学習の推進を図っていくことができるよう、学びの応援体制を整えることが必要であります。

学習への参加と目的について

学習への参加をしていると答える市民は、今回の調査で、76.4%を示し、市民の多くが日常生活の中で何らかの学習や活動を行っているといえます。内容的には、「趣味的な活動（音楽・美術・書道など）」「健康・スポーツ（健康法・ジョギング・栄養など）」に参加する市民が多く、平成27年度調査では8.1%であった「地域・コミュニティー」の活動が、「地域活動・伝統行事」の参加として、27.3%と増加しているのがわかります。市民の目がより地域活動・伝統行事に向いてきていると言えます。また、「家庭生活」「子育て・教育」への活動の参加も多くなってきています。

★「あなたはこの1年間で下記のような学習や活動をしたことがありますか」

(複数回答)



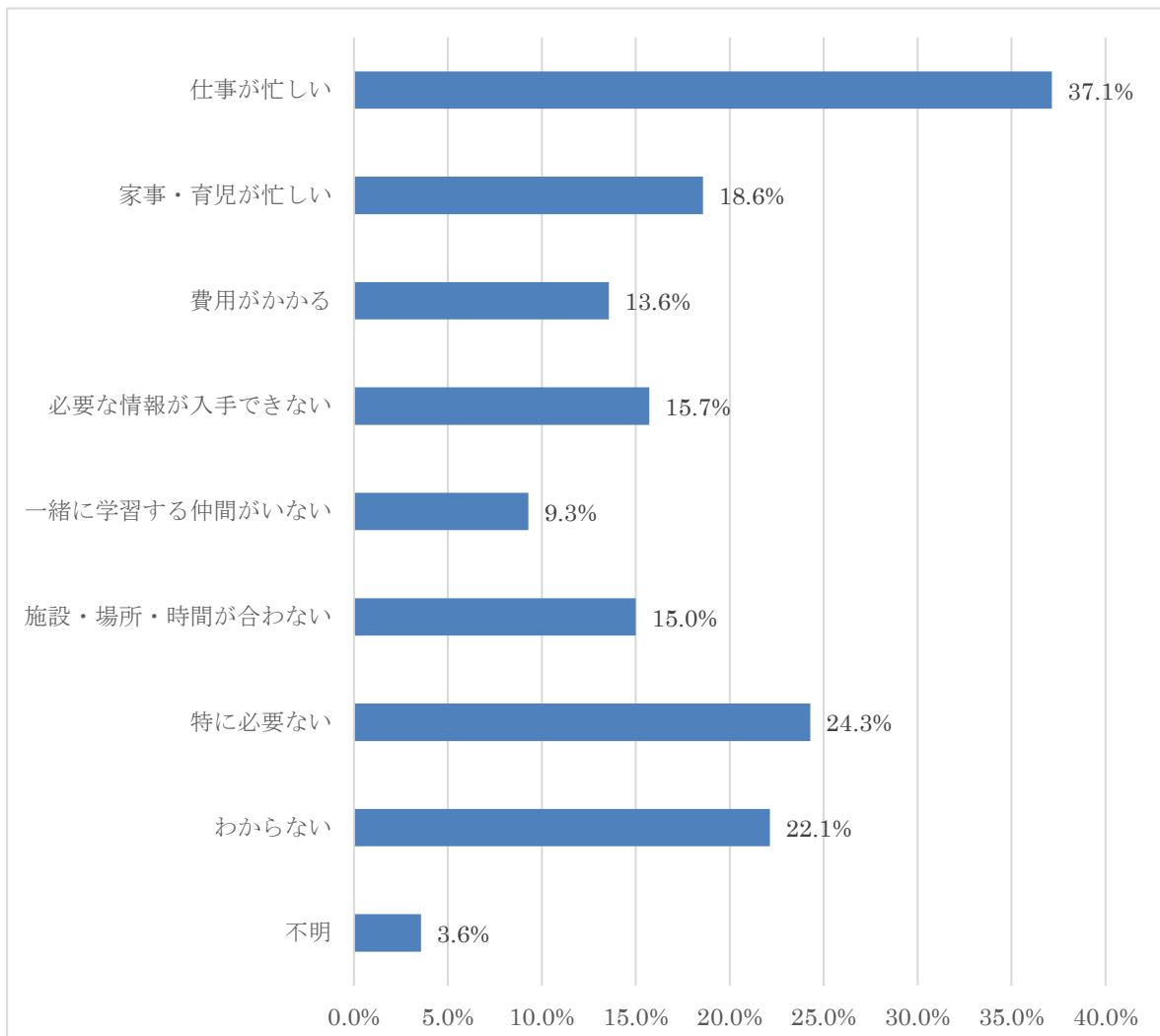
学習への不参加の理由について

学習への不参加の理由は、「勉強・仕事・家事で忙しい」が平成27年度調査の38.9%から、今回の調査では「仕事が忙しい」の項目だけで37.1%と高く、また「育児・介護で外出しにくい」が7.6%から、「育児・家事で忙しい」と答えた市民が18.6%と高くなっています。勉強・仕事・家事と学習への参加の両立が、時間的余裕のなさから難しいと感じている市民が多いと思われます。

時間的な余裕のない中で、学習に目を向かせることや、ライフスタイルに合わせて学びができる環境づくりを今まで以上に考えていく必要があります。

「学習をしていない理由」として、平成27年度調査で30.7%を占めた「場所を知らない」という課題は、より多くの情報を市民に提供してきた結果、「必要な情報が入手できない」15.7%・「施設・場所・時間が合わない」15.0%と改善されつつありますが、今後も情報提供の充実を図る必要はあると言えます。

★「学習や活動をしていない理由は何ですか」（複数回答）



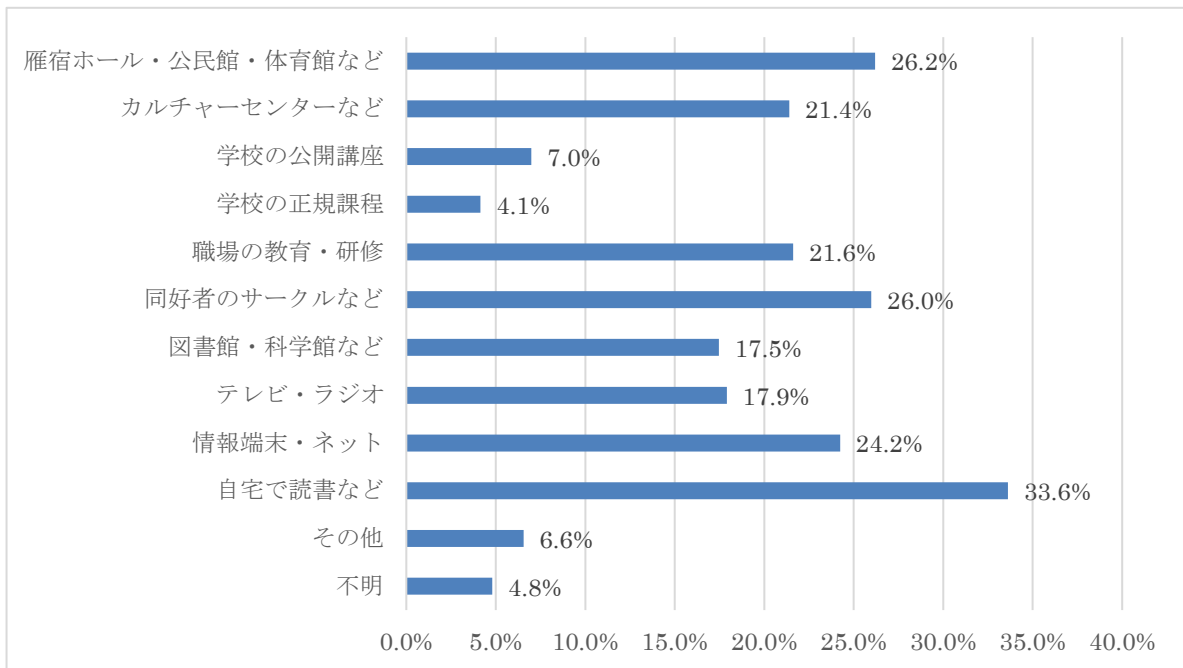
学習活動の場所や学習形態の結果について

情報提供の充実により、「雁宿ホール・公民館・体育館」などの公共施設を学習活動の場所として利用している市民が、26.2%と高い結果でした。年代別で見ると、年代が上がるにつれ高くなり、60歳以上の利用が格段に高く、高齢者にとっては、生涯学習の拠点として公共施設が根付いてきたといえます。

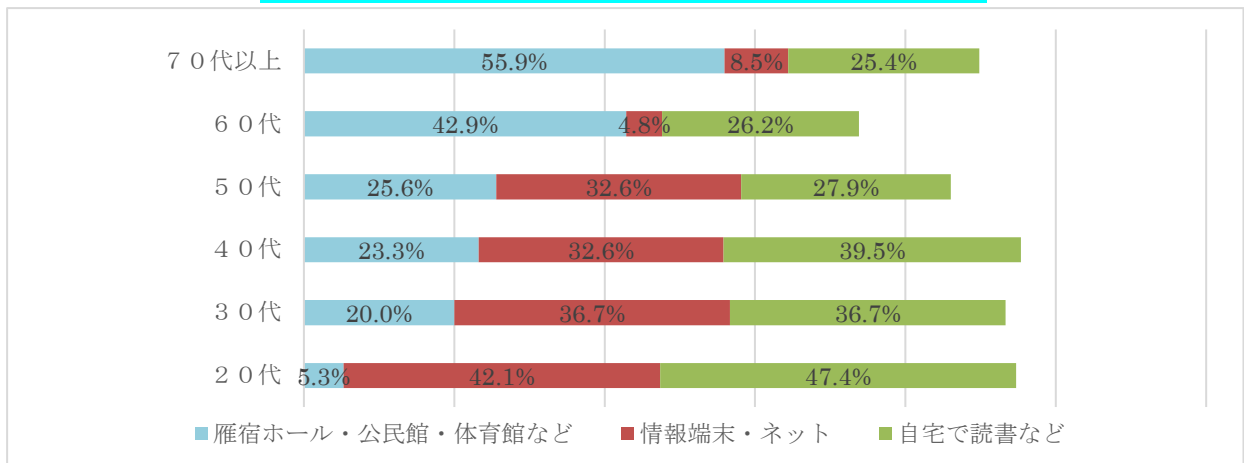
反対に、20代から40代に至るまでの学習形態としては「情報端末・ネット」や「自宅で読書など」の割合が高く、自宅にしながら学習するケースも多いといえます。

今後、在宅でもできる学びの環境を整えていくことも、生涯学習の推進のために必要だといえます。

★「どのような場所や形態で学習活動をしたことがありますか」（複数回答）



年代別に見る 主な場所および形態 (単位 %)



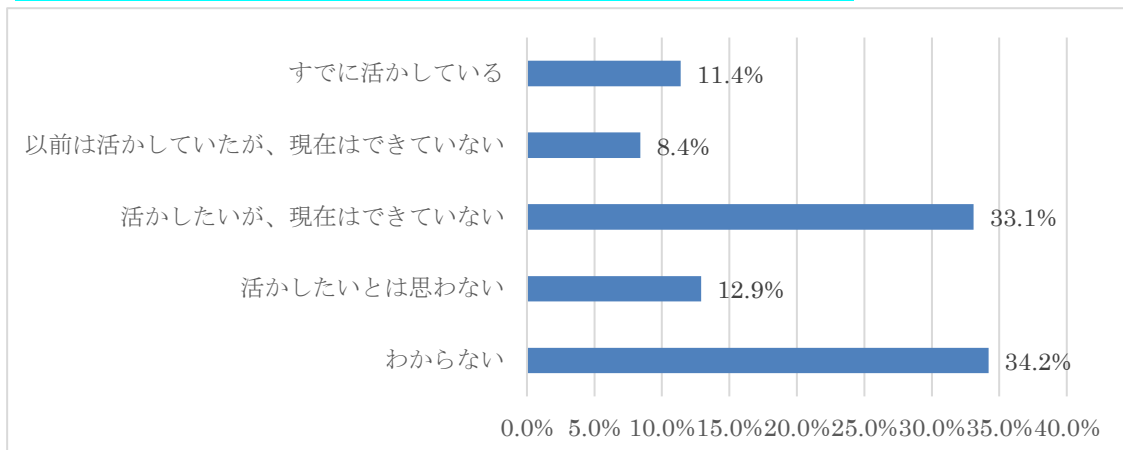
学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいかの結果について

平成27年度調査で、「学んだことを周りの人に伝えたり、それらを活かして活動したりすることはあるか」の問いに、「意識しない・不明」が54.2%と半数以上でした。今回の調査では、「活かしたいと思わない・わからない」と答えた市民が47.1%となり、学んだことを、地域や社会での活動に活かしていこうと考える市民が若干増えていることがわかります。

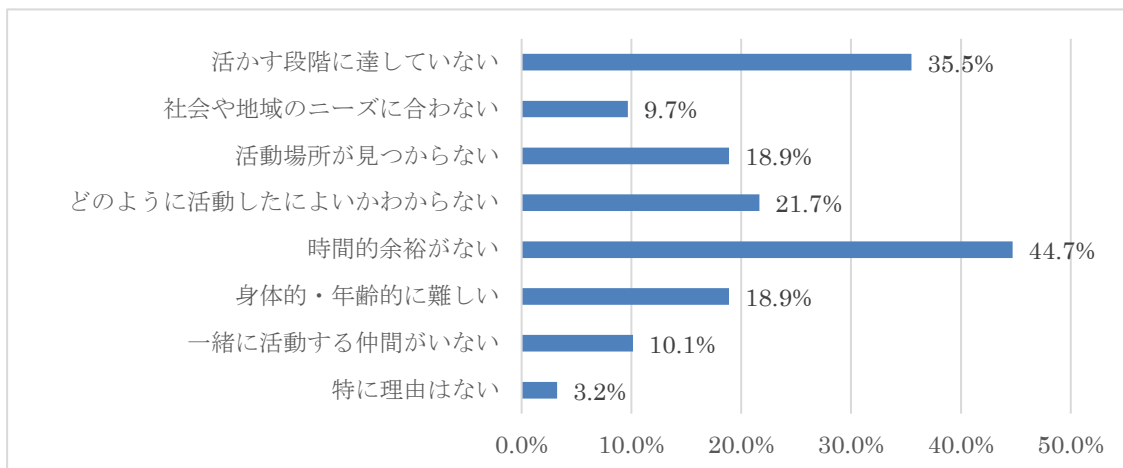
しかしながら、「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答える市民が、41.5%と高く、学習成果を社会に還元することができていない現状であることがわかります。

「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答えた市民の理由は、「活かす段階に達していない」が35.5%「活動場所が見つからない」18.9%「どのように活動してよいかわからない」21.7%となっており、市民の意向に即した実践的な学習講座の開催やその学習成果を発揮する機会、情報提供の仕方の支援策を考えていく必要があります。

★「学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいか」



★「学んだことを、地域や社会での活動に活かすことできない理由」



「ゲストティーチャー」制度の認知度の結果について

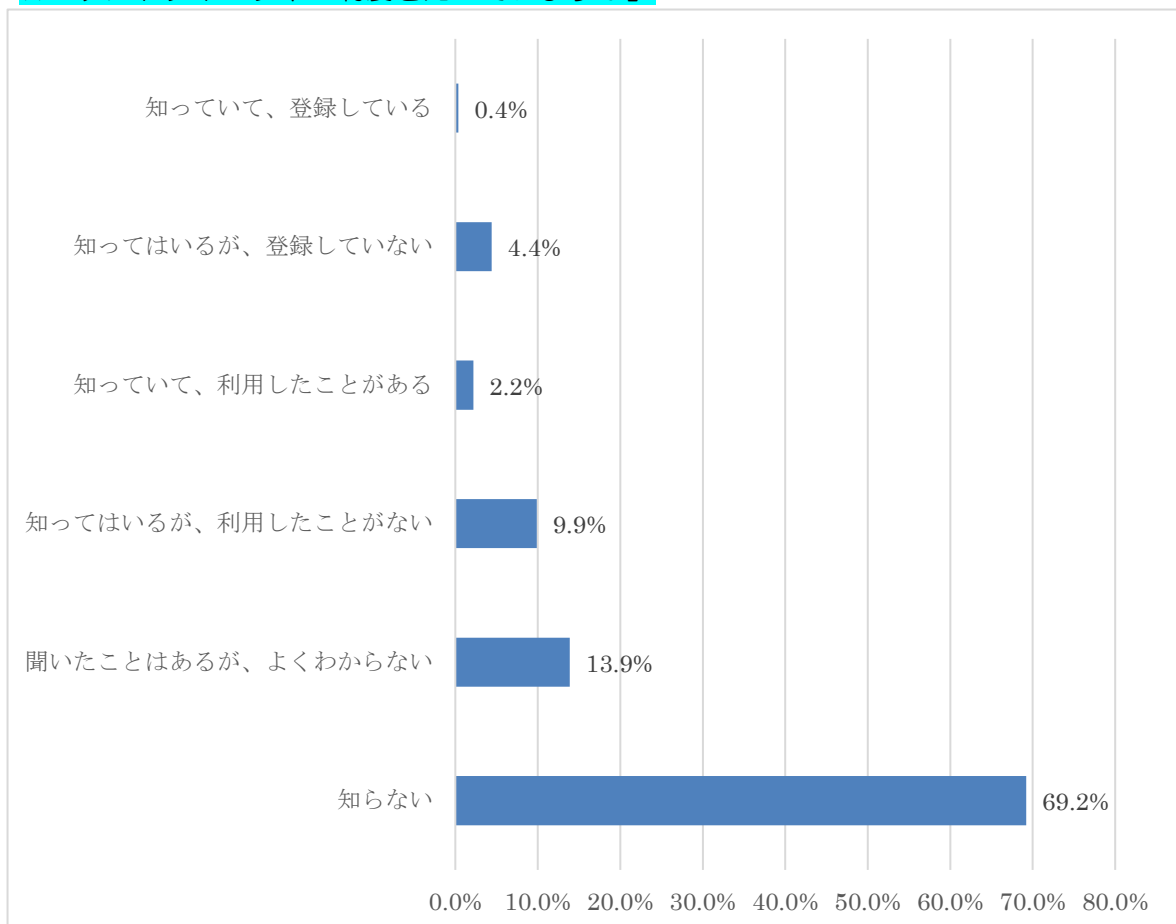
半田市では、小中学校、幼稚園、保育園、公民館などからの依頼に対し、事前に登録された一般市民の方が、特技を生かして、講師となって教える市民ボランティア制度を行ってきています。

令和元年度では、ゲストティーチャーとしての登録者数が183件と着実に数を増やしています。しかしながら、「ゲストティーチャー制度を知っていますか」の問いに、「知らない」と答えた市民が69.2%を示し、認知度が高いとは言えない現状であることがわかりました。

「知らない」と答えた市民に、いかにわかりやすく、そして目に留まるような宣伝活動を行っていくことも大切になってくると考えられます。

また、「知っている、登録している」市民が0.4%であったことを受け止め、登録するための手順や選考方法などを含め、市民にわかりやすく、そして申し込みしやすい環境づくりをすることも大切になってきます。

★「ゲストティーチャー制度を知っていますか」



今後の方向性について

「生涯学習活動をより盛んにしていくために、半田市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか」の問いから見えてきた市民の声と、今までの結果の分析から見えてくる方向性は以下の3点と考えられます。

一つ目は、自分づくりのための学びの応援

ライフステージに応じた学習が提供できるよう、学習コンテンツの充実、在宅でも学べる環境を作ることで、学びとつながる自分づくりを応援します。

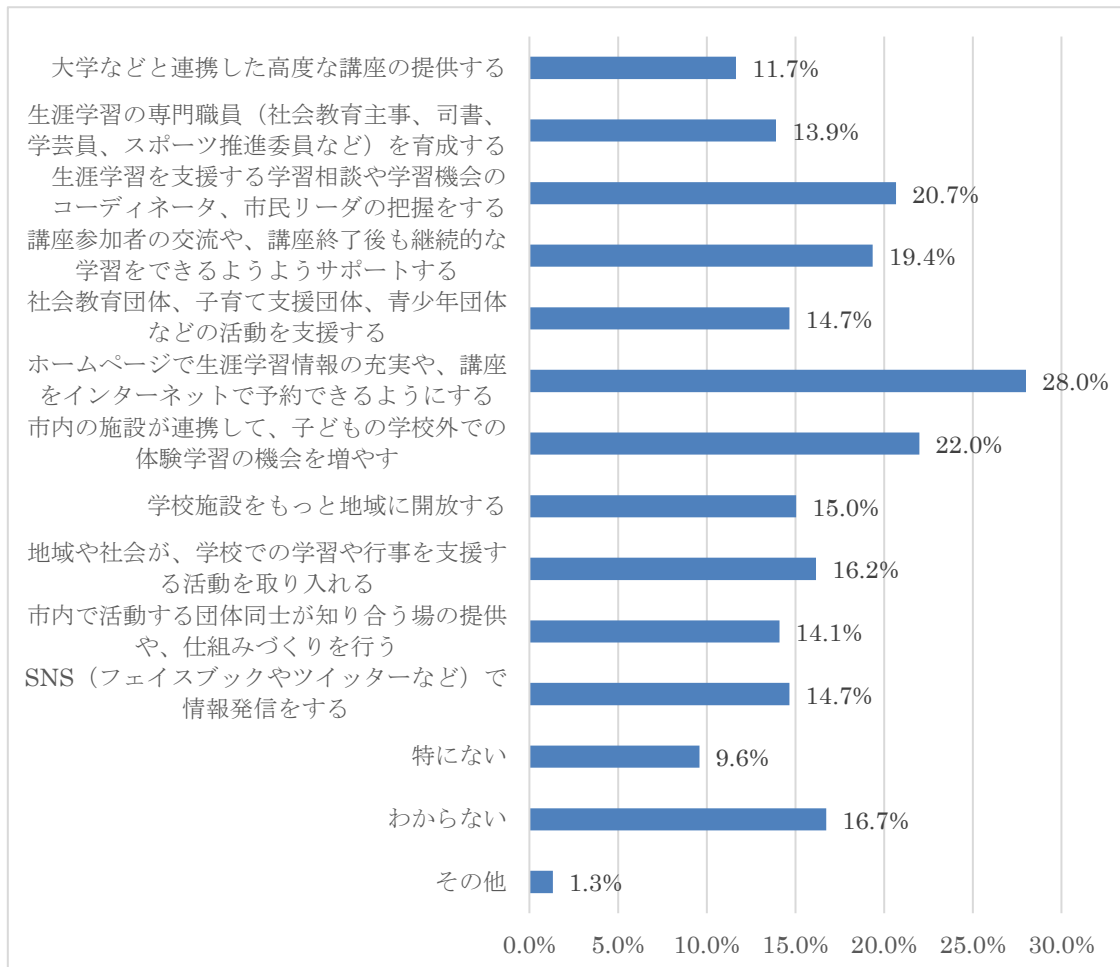
二つ目は、人づくりのための学びの応援

講師を含め参加者がつながる交流の場や、継続的な学習ができる学びの循環サイクル、自主的な講座開設ができるシステムづくりの確立をすることで、仲間とつながる人づくりを応援します。

三つめは、まちづくりにつながる学びの応援

地域にある各団体との連携の充実を図り、地域とつながるまちづくりを応援します。

★「市民の生涯学習活動をより盛んにしていくために、半田市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか」（複数回答）



第3章 基本目標と施策展開

第1節 「自分づくり」のための学びの応援

めざす 10 年後の姿

- ・子どもから高齢者、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が幅広く学習活動の場に参加しています。
- ・ライフスタイルに合わせた学習機会の場が充実します。
- ・生涯学習情報の提供が充実します。
- ・乳幼児期からの継続的な読書支援が充実します。

施策1 学習機会の充実

ライフステージ（乳幼児期から高齢者まで）に応じた学習機会の提供をはじめ、ニーズや時代に対応した講座の充実を図ります。

成人期、高齢期においては、心の豊かさや生きがいのために学ぶことを目的としたリカレント教育※の推進を図ります。

※リカレント教育：日本では、働きながら学ぶ場合、心の豊かさや生きがいのために学ぶ場合、学校以外の場で学ぶ場合もリカレント教育に含めている。

① 乳幼児期

乳幼児期の子どもとその保護者に対する学習の場を提供し、その充実を図るとともに、子育て支援の拠点施設を充実します。

施策名	内容
親子遊びや育児に関する講座の開催	遊びや育児に関する学習の場を設け、保護者の育児力の向上とともに、子どもの健全育成を図ります。
家庭教育講座・講演会の開催	乳幼児期の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する学習の場を設け、家庭教育の振興とその充実を図ります。
子育て支援拠点施設の充実	子育て支援の拠点施設である子育て支援センター「はんだっこ」を始め、7館ある児童センターや地域子育て支援拠点事業の実施施設等の事業内容を充実します。

② 青少年期

青少年期は、豊かな人間性や自制心、自立心を身につける大切な時期であり、社会のルールやマナー、人間関係、他人を思いやる心や感性などを育むための学習を支援します。

施策名	内容
さまざまな体験活動の充実支援	学校・地域の連携により、豊かな心を育てるための体験活動や世代間の交流活動など、さまざまな活動を支援します。
キャリア教育※の充実	よりよく生きるための夢や目標をもち、働くことの大切さを学び、社会の一員としての自覚を身につけられるような教育活動を充実します。
情報モラル向上プログラムの実施	青少年がインターネット等、各種情報機器を適切に活用するよう、情報モラルの向上を図ります。
子どもの安全・安心な居場所づくり	子どもたちが地域で健全に育成されるよう、放課後子ども教室や児童センターの事業の充実を図ります。

※キャリア教育：なりたい夢をもち、かなえるための能力や態度を育てる教育

③ 成人期

成人期は、幅広い期間であり、それぞれに応じた学習の充実・支援を図ります。また、勤労者に対しては、学習機会を充実させるとともに、開催日時等を工夫し、参加しやすい状況を整えます。

施策名	内容
趣味や教養のための学習支援	市民が生き生きと豊かに暮らすため、趣味を身につけたり、教養を深めたりするための講座が充実します。
家庭教育講座・講演会の開催	青少年期の子どもをもつ保護者を対象に、家庭教育に関する学習の場を設け、家庭教育の振興とその充実を図ります。
勤労者のための学習支援	勤労者のニーズに応じたプログラムの実施や参加しやすい時間帯での開催など、勤労者のための講座を充実します。
学びのきっかけや学び直しのための学習支援	再雇用や再就職などのきっかけづくりになる講座を開設します。
在宅でも受けることができる学習支援	ホームページにより在宅でも学習できる学習コンテンツを情報発信します。

④ 高齢期

高齢者が自らの健康について意識し、生きがいをもって楽しく暮らすための学習機会の提供・充実を図ります。

施策名	内容
健康づくりを学ぶ機会の提供	運動と脳トレを組み合わせた運動プログラム「コグニサイズ」など、高齢者が健康づくりを学ぶ機会を提供します。プログラム終了後は、参加者が地域で自主的、継続的に取り組めるよう推進します。
生きがいづくりの促進	市民など多様な主体による「通いの場」を充実させ、高齢者等の教養の向上及び生きがいづくりの促進を図ります。

⑤ 生涯全般

年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、自分らしく生きるための学習機会の提供・充実を図ります。

施策名	内容
学びたい時に学ぶことのできる学習機会の充実	子どもから高齢者、障がい者等誰もが、学びたい時に、学ぶことのできる学習機会の充実を図ります。
スポーツに触れる機会の拡充	心身ともに健康でいられるよう、子どもから高齢者、障がい者等誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる機会の拡充を図ります。
「みる」「する」「ささえる」スポーツの環境整備	競技者向けの各種スポーツ大会を開催するとともに、初心者向けスポーツ教室の充実を図ります。また、「みる」「する」「ささえる」など、さまざまな立場から楽しんでスポーツに関わることができる環境を整備します。
スポーツ施設の魅力向上	誰もが安心・安全にスポーツ施設を利用することができるよう、施設の効率的・効果的な管理運営を進めるとともに、魅力ある満足度の高い施設整備を推進します。また、利用率が低い時間帯の利用者数増加を図ります。

施策2 学習情報提供の充実

より多くの市民が生涯学習に関心をもてるように、より効果的な情報発信に努めます。

施策名	内容
学習情報提供システムの充実	生涯学習情報誌の充実を図るとともに、市ホームページ等による生涯学習情報提供を充実します。また、生涯学習や市民活動をはじめ、さまざまな活動に関する情報を集約し、インターネットを利用して、いつでも、どこでも情報を収集・発信できるシステムを構築します。また、SNS※などについても積極的に活用し、より効果的な情報発信をします。
市民ボランティア講師と市民をつなぐシステム作り	学びたい・気になる教室に気軽に連絡ができるよう、市民ボランティア講師の講座内容や連絡方法を載せた情報誌「マナナビ」の周知を図ります。

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス（social networking service）ひとつのつながりを、インターネットを通じて構築するサービス。フェイスブックやツイッター、LINE、インスタグラムなど

施策3 読書支援の充実

学びの習慣が身に付くよう、乳幼児期からの継続的な読書支援や知的好奇心を育てる学習機会の充実を図り、市民の学ぶ意欲を高めます。

施策名	内容
子どもの読書活動支援	ボランティア団体等と連携し、子どもたちに読書の楽しさ、保護者に本を通じた親子の触れ合いの大切さを伝える事業を開催します。
誰もが利用しやすい図書館サービスの提供	電子書籍の導入、やさしい日本語での利用案内など、障がい者や高齢者、外国籍市民に配慮した図書館サービスの研究をします。
郷土資料・貴重資料のデジタル化	破損や劣化の恐れのある図書や古文書等の貴重な資料について、デジタル化等による保存を行うとともに、ICTを活用することで、より多くの市民が親しめるよう取り組みます。

第2節 「ひとづくり」のための学びの応援

めざす 10年後の姿

- 地域の人材が生き生きと生涯学習活動をすすめています。
- 地域の活動や学習を通して、人間性や社会性が育まれ未来のリーダーが育っています。
- 市民の自主的な講座が多く開設されています。
- 地域・家庭・学校の連携が深まることで、若い世代をはじめ、市民に助け合うボランティア活動が広がっています。

施策1 生涯学習推進のための人材活用と育成

1. 学んだことを活かすことができる場の提供

市民が学んだことや特技を生かせるゲストティーチャー制度をさらに充実し、指導者の育成と学習活動に取り組む市民の発掘と、自主的な講座を開設する講師と市民の支援を図ります。

施策名	内容
ゲストティーチャー制度※の充実	ゲストティーチャー登録者を精選するとともに、市民が気軽に活用できるよう制度の改善・周知を図ります。
「まなびとゼミ」の充実	「学びと出会える場所」を提供することで、市民が「学び」と出会い、「学び人」となる講座を精選し、充実を図ります。
「マナナビ」※の活用	学びたい・気になる市民から直接連絡がとれ、自主的な講座を開設できるようにするため、「マナナビ」を活用します。

※ゲストティーチャー制度：小中学校、幼稚園、保育園、公民館などからの依頼に、事前に登録された一般市民の方が、特技を活かして、講師となって教える市民ボランティア講師制度

※「マナナビ」：学びたい・気になる教室に気軽に連絡ができるよう、市民ボランティア講師の講座内容や連絡方法を載せた情報誌

2. 人材育成の充実と支援

意欲的な市民がコーディネーターやボランティアとして活躍できるような場を提供するとともに、積極的に活動する団体への支援を行います。また、豊富な知識や経験を備えたシニア世代をはじめとした人材の発掘を進めます。

また、人間性や社会性を育むため、地域の行事やボランティア活動など地域活動への青少年の自主的、自発的な参加を促進し未来のリーダーの育成を図ります。

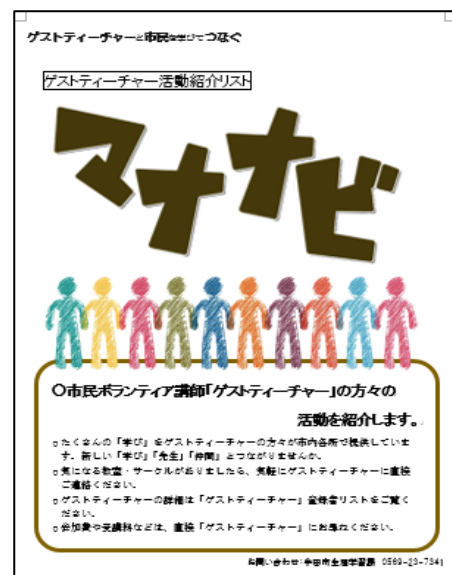
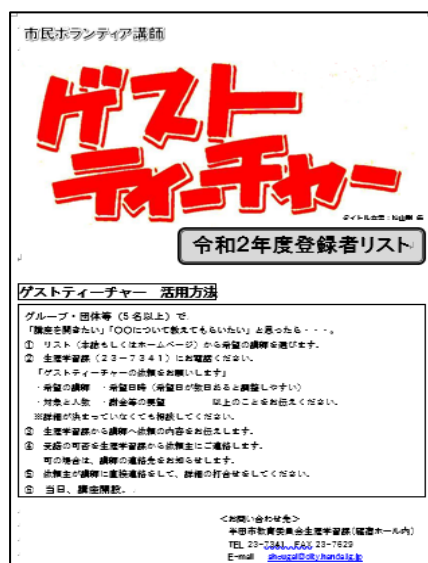
施策名	内容
ゲストティーチャー研修会	ゲストティーチャー登録をしている講師が、自分以外の講座を体験することで、ゲストティーチャーのスキルアップをめざします。
コーディネーターの活躍の場の提供	生涯学習や市民活動を充実するために、生涯学習コーディネーターや市民活動コーディネーターの活躍の場を提供します。
ボランティアの活躍の場の提供	生涯学習ボランティア、子育て支援ボランティア、高齢者向けボランティア等、さまざまなボランティアの活躍の場の提供をします。
シニア世代の人材の発掘	シニア世代の方が、セカンドライフを考える中で、市民活動などを知ったり、始めたりするきっかけづくりの場を設定します。
青少年健全育成団体の活動支援	地域の中で、心身ともに健康な青少年の育成を図るため、青少年健全育成活動を行う団体の活動を支援します。

施策2 市民の自主的な講座開設のためのシステムづくり

市民が企画した講座を充実するとともに、市民が自主的に講座を開催できるよう支援します。

また、「何かを教えたい」「教えたいことはあるが、どうやってすすめるかがわからない」といった市民が相談できる環境を整えます。

施策名	内容
公募型の市民企画講座の開催	ゲストティーチャーや社会教育関係団体をはじめとした市民や団体による企画講座を公募し、開催できる制度を充実します。
相談体制の整備	学びたいと考えている市民に収集した情報を提供し、学習に活かされるよう、学習相談窓口を設置します。
講座開設システムの充実	生涯学習情報誌の充実を図るとともに、市ホームページ等による講座開設の提供を充実します。また、インターネットを利用して、いつでも、どこでも情報を収集・発信できるシステムを構築します。
講座内容の充実	講座終了後に、受講者および講師、企画者による評価を行い、講座におけるそれぞれの満足度を測り、より良い講座の企画を進めます。



第3節 「まちづくり」のための学びの応援

めざす 10 年後の姿

- 地域の課題を解決するために、生涯学習施設が多く利用されます。
- 地域活動が充実し、伝統行事に参加する市民が増えます。
- 地域の資源を活かした各種連携がさらに充実します。
- 健康で心豊かなまちづくりにつながる学びの機会が充実します。
- 誰もが芸術文化を鑑賞したり、表現したりする機会が充実します。

施策1 生涯学習施設での学びの応援

市民及び市民団体が自主・共催事業を活発に行い、幅広い市民の参加を促進するための支援を行います。また、地域主体での住民が集まる交流事業を開催するとともに、地域のまちづくりを考える場として生涯学習施設を利用します。

また、だれもが使いやすい生涯学習施設とするために必要な施設の整備を進めます。

施策名	内容
ネットワーク化と地域施設との連携	中央公民館を中心として、各生涯学習施設と連携し、情報を共有することで市民の自主・共催事業を広く展開します。
施設改善及び整備	安全で快適に利用できるようにするため、バリアフリー化及び老朽化の著しい設備の改善を計画的に進めます。



旧 向山公民館



現 向山公民館

施策2 伝統行事に参加する市民への応援

市内には市民の貴重な財産である文化財が多くあり、文化財専門委員や専門家等の意見を踏まえ、適切な保存、継承に努めます。

特に、半田市の特色である海運・醸造文化やそこから育まれた山車を始めとした祭礼民俗文化を発信することで、市民の文化財保護意識の高揚を図るとともに、伝統行事への参加を促します。

また、全国に半田の文化の魅力を発信します。

施策名	内容
醸造・山車などの特色ある文化、文化財の保存・継承	指定文化財や登録文化財の保存継承の手法や技術について、文化財専門委員を始め、専門家や学識経験者からの助言による恒久的な保護に取り組みます。
文化、文化財の担い手確保の支援	市民が文化を身近に感じ、自らも文化の担い手であることを自覚することで、見学者から参加者へと変わる新たな枠組みを、伝統文化保持団体と検討します。
若者が文化や文化財に親しむ機会の提供	半田の特色ある文化や文化財について、若者が触れ親しむ機会をつくり、魅力の気付きや発信、担い手不足の解消へ若者の意見を取り入れます。



国の重要文化財 旧中埜家住宅



施策3 地域の資源を活かした各種連携への応援

日本福祉大学、小中学校、高校、企業等と連携を図りながら、市民参画による講座やイベントなど生涯学習関連事業の一層の充実を図ります。

また、それぞれが協力・連携した生涯学習関連の講座やイベントが開催できるような相互連携を推進していきます。

施策名	内容
地域とともに子どもを育てる連携	地域社会全体で子どもを育てる仕組みづくりを進めるとともに小中学校が地域に根ざした組織となるよう活動を支援します。
日本福祉大学との連携	大学が開催する講座・イベントのPR支援、市と大学との共催による生涯学習プログラムの充実、各種講演会・講座等への講師派遣依頼などの取組を充実します。
高校との連携	市内の高校との連携を図り、各種講座、イベント等を充実します。
各種団体との連携	市民活動団体やボランティア団体、観光協会、商工会議所、農業団体などの地元団体と連携を図り、各種イベントを充実します。
企業との連携	企業との連携を図り、各種講座、イベント等を充実します。また、より多くの企業ゲストティーチャー登録を働きかけます。

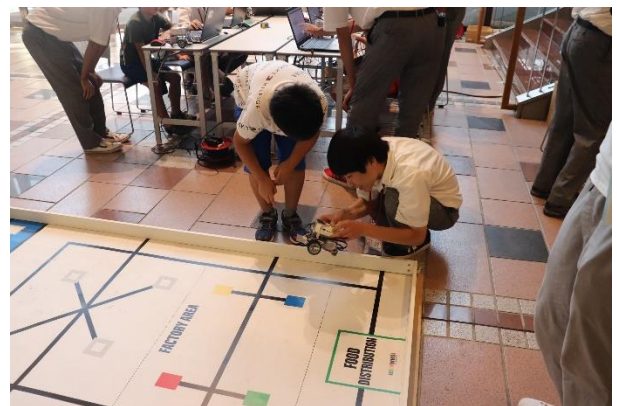
「～オリジナルキーホルダーを作ろう!～
ものづくり教室
日本最先端の鉄を作る技術を学び、工場見学をします。」



【制作のようす】 【キーホルダー作品例】

- 日時 令和元年8月7日(水) 10:00～14:30
※集合9:30、解散14:45頃
- 会場 JFEスチール株式会社知多製造所
※集合・解散 蔵のまち東駐車場(アイブラザ半田の北側にある駐車場)
- 対象 市内在住の小学5・6年生
- 定員 40名(応募多数の場合は抽選)

※受講決定通知はがきは7月22日(月)発送予定



子ども科学体験教室
「高校生によるプログラミング学習講座」

施策4 健康で心豊かなまちづくりにつながる学びの応援

地域課題や生活課題に応じ、解決するための取組への支援を充実します。

また、地域課題や生活課題に応じた学習機会の充実を図ります。

施策名	内容
青少年の健全育成のためのまちづくり	人間性や社会性を育むため、地域の行事やボランティア活動など地域活動への青少年の自主的、自発的な参加ができる場の提供をします。
市民活動の活発なまちづくり	関心のある市民・学校・事業所が気兼ねなく活動ができる場の提供をします。
自分らしく生きられるまちづくり	個人の価値観やライフスタイルが多様化している中、だれもが個性と能力を発揮できる社会の実現に向けた学びの場を提供します。
多文化共生への意識づくり	国籍、民族等の異なる市民が互いの文化的な違いや特徴を理解する学びの場を提供します。
健康的なまちづくり	市民一人ひとりが日常生活の中で、健康づくりに取り組むことができるような学習の場を提供します。
福祉の充実したまちづくり	福祉理解が広がるための講座などを開催するとともに、障がいの有無によらず、誰もが共に学び、交流する場を提供します。
環境保全を意識したまちづくり	市民の地球環境や自然環境に対する意識の向上のため、再生可能エネルギーや身近な自然、生き物などに対する環境学習が充実します。



半田市鉄道資料館 C11265 蒸気機関車

施策5 文化・芸術活動の参加機会の充実と活性化

本市の文化振興を発展させるため、文化・芸術の拠点として、雁宿ホールを積極的に活用します。また、各生涯学習施設についてもその有効活用を図ります。

1. 参加機会の充実

施設の特性を活かしながら各施設が連携し、各種講座の開設、市民が気軽に参加できる機会を充実します。

また、時代のニーズに合わせ講座の内容を見直し、ライフステージに合わせて参加できる魅力ある講座を開設します。

施設名	内容
① 雁宿ホール・中央公民館	質の高い芸術や芸能等の文化と身近に接することができるよう文化振興の拠点として、より多くの市民が日常的に文化に触れられる機会を提供します。
㊦ 半田市立図書館 ③ 亀崎図書館	各年齢層に向けた講座・行事を開催するとともに、関連資料の充実を図り、市民の文化活動を支えます。
㊦ 半田市立博物館	子どもから大人まで、幅広い年代の市民が参加できるように、学芸員の専門性を活かしつつ、専門的であっても分かり易い体験型の講座や企画展を、多岐にわたって行います。 また、祭礼・山車文化をより身近に感じられるよう、保存団体との連携による体験型の講座や展示を行います。
㊦ 半田空の科学館	幅広い年代が楽しめるプラネタリウムの番組を投影し、それらと連動した企画展示を行います。また、星空を学ぶ星見会などを開催します。
㊦ 新美南吉記念館	読書会や朗読会で作品に親しみ、講座や講演会で学び、新美南吉童話賞で創作に挑戦するなど、市民が多様なアプローチから新美南吉とその文学に触れる機会を提供します。
㊦ 半田市鉄道資料館	武豊線開業初期のレールを始めとした鉄道関連資料の展示を行ったり、C11265 蒸気機関車運転席で機関士気分を味わってもらったりして、文化に親しみ、楽しみながら学べる機会を提供します。



2. 文化・芸術活動の活性化

市民が文化芸術についての価値を見出せるよう、触れ親しめる機会を作り、市民の文化・芸術活動を活発に行えるよう支援します。また、郷土の歴史への理解と文化の振興に努めます。

施策名	内容
文化事業の充実	質の高い芸術や芸能等の文化と身近に接することができるよう文化振興の拠点である雁宿ホールの事業を充実します。また、文化振興を図る事業を充実します。
音楽文化の充実	交響楽団などの高い専門性を持つ団体と連携をし、コンサート等を開催します。 各団体へのアウトリーチやワークショップを行い、次世代への文化の伝承に努めます。 音楽のあるまちはんだの新たな音楽文化の醸成を図る事業を充実します。
企画展、館蔵品展等の展示会及び講座の開催	魅力ある展示会や講座を開催することにより、来館者の増加に努め、子どもから高齢者まで、幅広い層の学習機会を充実します。
新美南吉を通じた学びの応援	時宜を得た企画展や講座を開催することで、新美南吉とその文学についての多様な学びを応援します。また、ガイドボランティア活動を通じて学んだことを活かす場を提供します。
特色ある半田の文化の魅力的な発信	文化財保存団体等との連携による半田の特色ある文化についての体験講座の開催や、高校生や大学生などの視点を取り入れた若者が興味をもてる情報発信を行います。
学校等と連携した郷土学習の推進	半田の特色である、海運・醸造文化やそこから育まれた山車を始めとする文化や文化財について、博物館と学校等が連携し、小学生の時期から触れ親しむことで郷土への誇りと愛着、文化への保護意識や当事者意識を育みます。
歴史的観光資源でのイベントの開催	蔵のある半田運河や、半田赤レンガ建物等でのイベントなどを充実させます。

資料編

1 市民からの意見・要望

令和元年11月に、「半田市生涯学習に関する市民アンケート調査」（18歳以上90歳未満の市民2,000人を抽出、回答数598、有効回答率30.0%）を実施し、市の生涯学習を盛んにするための。ご意見・ご要望を頂戴いたしました。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- 市の生涯学習等、いろいろ活動するのに為になることがたくさんありますが、年と共に腰が曲がり外出するのが苦痛になりました。そのため、家の中で学べるテレビやラジオを聞いて画面に向かって返事をしています。
- 若い方でも参加しやすくしてほしい。SNSで情報を発信するとよいのではないか。今はフェイスブックやツイッターよりもインスタグラムをやっている方が多いと思うので活動している写真や物などを投稿すると分かりやすく参加しやすくなるのではないか。
- オカリナ教室やペーパークラフト教室など 知多市などではあるのだが、半田にはないことが多いと思います。
- 継続して学習ができるよう、定期的な講座もあって良いのかなと思う。
- 気軽にお試しできそうなものもあってほしいかな・・・。
- 趣味を持っていて趣味の仲間もいるとあえて生涯学習に参加することで時間的にしぼられるような感じがある。ラジオ体操のように毎週〇曜日△時に「そこへ行くとやってるよ～」みたいななら参加しやすい。
- 年齢によって情報を得るもの（媒体）が違うので、様々な形で情報発信していくことが必要かと思っています。
- 生涯学習の講座が多くなり嬉しいです。今後参加していきたいです。
- 今から、キャッシュレスや、パソコン等、使えると老後の生活がしやすくなる。少しなりとも活動範囲を広げやすくなるものを学びたいと思います。
- 近年高齢者が増加し、元気で生きる意欲も高くなっている。興味、関心も多方面に広がり、学習講座を開けば高齢者が多数を占めている。
- まずはきっかけ作りが大事なのと、そのきっかけとなる情報を発信する必要があると思います。また社会人は平日の参加が難しいので土日で学べる環境作りが必要と思います。
- 市報や展示物をよくみていますが、若い人向けが多く、参加出来る機会がありません。もう少し高齢者向けも増やして下さい。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- ターゲット層との結びつけが重要だと思います。生活を豊かにするものがあるといいと思います。今の生活に不安・不満のある人にそのような活動を届けられることができるとより良い市民生活につながると思います。
- 私のような学生でも参加しようと思えるものがあるといいなと思います。例えば「大学生限定」などくくりがあると大学生しか来ないなら行こうかなと思いますし、SNS や駅などにチラシがあるなど、行きそうな場所で宣伝してもらえれば目に入ると思います。
- 土日に社会人が仕事などに役立つ講座を開催してほしい。（PCのスキルをつけるとか）定年しても再雇用や再就職などに役立つものがあるといいと思う。平日は仕事が忙しく又、残業などで参加できないなどの社会人はたくさんいる。将来を見据えた役に立つ講座なら高額でも参加したい社会人はたくさんいると思う。
- 3歳までの赤ちゃんを育てている母親へのサポートの充実（世話の仕方、遊び、言葉 etc）をしていけるといいと感じている。（祖父母が仕事をしているということが増加し、孤立した状態にいる人が不安を抱えている・・・）
- 仕事をしている人を対象にしているように思えない。土日などの開催が増えるといいと思う。
- 色々な年齢の人が参加したいと思えるような講座や、参加できる時間帯（仕事をしている人が参加しやすい時間を考慮して）の幅を広げてみてはどうか。子育て中の人でも気軽に参加できるように託児月があってはどうか。
- 平日の講座では仕事があって参加できない事が多く残念です。
- 生涯学習は行きたいと思ってゲストティーチャーのチラシなど見ることがあるのですが、土日や平日の夕方（18：00以降）などの仕事をしている人が参加できるものが少ないという印象です。また地域の講座＝高齢者が参加するというイメージがあるので、若い人も参加しやすいような工夫が必要だと思います。
- 生涯学習活動は自分自身の教養を高めるために必要かとは思いますが、仕事や育児など日々の生活に忙しく限られた時間を自分のために使うのか選択が難しい。
- 勉強したい気持ちはあるが時間や費用、心に余裕がなく後回しになっている事があり残念です。自分に合っているものを誰かに教えて頂けたらありがたいです。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- 私は今雁宿ホールを利用していますが、短期の講座などを玄関あたりに見やすいポスターで掲載していただくと参加する、しないはともかく、気に留めたりできるのでは・・・
- パソコンやスマホがあまり使えない人にも生涯学習に関する情報を取得する媒体があれば、いろいろな人が生涯学習に参加できると思う。
- 特にこだわってやりたいことはないが、身体を動かすことを中心に生涯学習に参加してみたいとは思いました。まずは情報を集めること。インターネットを使えない人でも情報が得られるといいと思います。
- 現在どんな講座があるのか、どうすれば新たな講座を開設してもらえるのか、半田市がどこまでサポートしてくれるのかを、市民がわかりやすく調べられる仕組み作りが一番大事だと思います。
- ネットワークの構築、顔の見える関係作り、若年層が生き生きと活動できる場を作る（ハード面もソフト面も）意見交換
- 市報などで教室、講座など見かけます。昔は少なかった親子参加や子育て等たくさんあって自分の年齢、タイミングなどが合っていれば参加したかったなあと思うことが多々あります。この先もいろいろな企画頑張ってください。
- 学習の必要性があるときにどこで学ぶ事ができるかわからない事が多いので何らかのガイドがあった方が良くと思います。
- 半田市民にもっとわかりやすく情報を知らせてください。
- PRの仕方をもっと工夫すること。・土日での開催。・クラシティ、公民館などの有効活用。
- SNSだと若者にも簡単に情報とか届くからいいと思う。
- インターネット、SNSの有効活用
- 情報共有する為の方法・システム作りの確立。
- 募集しているページがあれば（ネット、市報など）見て考えたい。
- 気軽に出来るような環境を整えていれば参加するかもしれない。申し込みとかが面倒な時もあるため。
- SNSは今若い子にとっては一番身近な発信源なのでSNSを活用すれば若い子は生涯学習を学びやすくなる。逆に年配の方は新聞などが見やすいと思うのでこの2つの活用は大事だと思います。

2 「ひとつづくり」のための学びの応援に関連すること

- 社会的に活動している人の講演など聞いて勉強できたらと思うので費用はかかっても時の社会情勢の話など聞いてみたい。ほかのまちに居た時、その機会があり、話を聞いたことがあるがとても勉強になった。
- 教員退職者や、民間人でもそれに詳しくれば講師になってほしい。好きな講座を探し、出かけられるように、講座を選べられれば良いと願っています。
- 若年層をターゲットにした生涯学習のあり方を開発してはどうか？その時リーダー指導者が地域の高齢者という形が理想である？またその逆もあり、子どもや若者が指導者となる。
- 高齢者の持っている力が発揮できるような場、地域の小学校・中学校等、子供たちの支援に関われる場（現在応援隊として参加しています）をもっと広げて行ってほしいと思います。
- ホームページが見にくい。フェイスブックやツイッターなどはやりたくないで市民が登録できるメールがあるとよい。
- そういった場所に出向く人は決まった人のみになってしまっていると思うので、講座のみするのではなく若い世代や地域交流をふだんしない方に来てもらえるようにほかのイベント（抽選会や遊具体験など）と組み合わせて行った方が行きやすい。
- 生涯学習は個人の意欲の問題も大きいと思います。
- 参加したいと思う魅力的講座と仲間（誘われる、誘う）、継続して続けたいと思うメンバーがいたらいいです。
- 幅広い年齢層が集まれる学習及びその活動が良いと思います。
- 他の人との親睦が少ない。
- 仕事と子育てで、全く自分の時間が持たなくてこのままじゃつまらないと思っていましたが、5人集まれば学べるチャンスがあるのだとワクワクしてきました。もっと手軽に学べるチャンスが作れば現実的になるのかなと思います。ラインとかで予約できたら助かります。

3 「まちづくり」のための学びの応援に関連すること

- 区民館を利用して、そろばん、書字など親子で利用したり出来るようにしてほしいです。もっと区民館が若い人達にも利用できる学習の場があるとよいと思います！
- もっと受験生が自習できる場所を増やして欲しいです。
- 近くの神社でコミュニティールームとして開放したり習い事を行ったりしています。とても良いことだと思うのでこれからも続けてほしい。
- 誰もが気軽に学習に取り組める環境（自習スペース）を用意すると盛んになると思います。
- 学校施設をもっと開放する。市民の人にも開放してほしい。
- 生涯学習として体づくりを積極的に行おうとしているが、半田市は道が悪くサイクリングがやり辛い。道（歩道、自転車道）を舗装し、学生から成人までジョギングやサイクリング等の生涯スポーツを楽しめる環境にして欲しい。
- スポーツを通じて学び、健康促進するのが良いと思います。1人でも気軽に参加できるようなイベントがあると地域交流も深まるかもしれません。
- 直接生涯学習とは関係ないが、ブラジルポルトガル語を継続的に学習できる場があれば市の人口の数パーセントを占めるブラジル人との交流もしやすくなるかと思う。
- ここ数年、雁宿ホールで催されている高度な芸術作品を鑑賞していると、大変刺激となって、新しいことを学んでみたいと思うようになりました。今後も質の高い芸術作品をどしどし招へいし、開催してほしいです。

2 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

令和元年度 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

	氏 名	所 属 等
委員	鈴川 慶光	半田市教育長
	加来 昭子	半田市社会教育委員
	竹内 浩一	半田市社会教育委員
	小島 孝志	半田市区長連絡協議会委員
	長谷川寛子	半田市文化協会代表
	榎戸 大介	半田市スポーツ協会代表
	清澤 吉徳	半田市老人クラブ連合会代表
	山下 美保	半田市小中学校校長会代表
	早川 寿樹	半田市小中学校教諭代表
	稲澤 由以	半田市内高等学校長代表
	小坂 和正	半田市社会福祉協議会 事務局長
	松本 一代	学習者代表
	板倉 恵美	半田女性活動連絡協議会代表
	米持 三幸	半田商工会議所代表
	芳金 秀展	公益社団法人半田青年会議所代表
福田 昌寛	連合愛知知多地域協議会代表	
澤田 恭尚	半田市公民館連合会代表	
顧問	千頭 聡	日本福祉大学地域連携推進機構長

【市事務局】

岩橋平武（教育部長）

波田 聡（主任指導主事）

鈴村貴司（生涯学習課長）

富田康雄（教育主事）

新美恭子（副主幹）

【関連部署】

山田 宰（企画課長）

長谷川信和（市民協働課長）

大嶽浩幸（環境課長）

榊原宏之（地域福祉課長）

倉本裕士（高齢介護課長）

伊藤奈美（子育て支援課長）

高浪浅夫（幼児保育課長）

竹内 清（スポーツ課長）

山口知行（保健センター事務長）

山下由美（図書館長）

間瀬浩平（博物館長）

榊原一人（新美南吉記念館長）

【日本福祉大学事務局】

大崎博史（企画政策課長）

岡崎佳子（企画政策課長主幹）

令和2年度 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

	氏 名	所 属 等
委員	鈴木 慶光	半田市教育長
	内藤 菜穂	半田市社会教育委員
	鈴木 恒夫	半田市社会教育委員 半田市文化協会代表
	榎戸 大介	半田市スポーツ協会代表
	清澤 吉徳	半田市老人クラブ連合会代表
	山下 美保	半田市小中学校校長会代表
	水野 知己	半田市小中学校教諭代表
	稲澤 由以	半田市内高等学校長代表
	小坂 和正	半田市社会福祉協議会 事務局長
	松本 一代	学習者代表
	都築 広子	半田女性活動連絡協議会代表
	森 啓貴	半田商工会議所代表
	細川 俊輔	公益社団法人半田青年会議所代表
	竹内 宏行	連合愛知知多地域協議会代表
武内 雅	半田市公民館連合会代表	
顧問	千頭 聡	日本福祉大学地域連携推進機構長

【市事務局】

岩橋平武（教育部長） 鈴木康弘（主任指導主事）
 新美恭子（生涯学習課長） 竹内 光（教育主事） 赤坂英寿（主査）

【関連部署】

大木康敬（企画課長） 長谷川信和（市民協働課長）
 大嶽浩幸（環境課長） 竹内 正（観光課長）
 杉江慎二（地域福祉課長） 沢田義行（高齢介護課長）
 伊藤奈美（子育て支援課長） 竹内 健（幼児保育課長）
 加藤計志（スポーツ課長） 沼田昌明（保健センター事務長）
 山下由美（図書館長） 間瀬浩平（博物館長）
 遠山光嗣（新美南吉記念館長）

【日本福祉大学事務局】

赤松伸一（企画政策課長） 岡崎佳子（地域連携コーディネータ）



はんだ学びプラン 第3次半田市生涯学習推進計画
発行 令和3年4月

半田市教育委員会生涯学習課（雁宿ホール内）
TEL：0569-23-7341 FAX：0569-23-7629
〒475-0918 半田市雁宿町1丁目22番地の1
Eメール：shougai@city.handa.lg.jp
